

- I. 日時：平成 21 年 8 月 10 日(月) 午後 2 時から午後 4 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：曾我部委員長、青木委員、高野委員、田中委員、田辺委員、角田委員
井端事務局長、森下、恩田
- IV. 検討事項

議 事

1. 学士力の詳細設計について

委員より、学士力とコアカリキュラムとの対応（資料 1）に関するたたき台案の説明があり、種々の意見交換が行われた。各委員からの主な意見と追加修正点は以下のとおり。

- ・ 学士力(1), (3)の初年度(1年)に、環境などの関連で化学や技術史教育が必要である。
- ・ 学士力(1)の中期(2~3年)に、数値計算等の手法としての数値解析法が必要である。
- ・ 実験調査研究(フィールドワーク, ゼミナール)は中期(2~3年)に横断的に配置する。
- ・ 学士力(4)の中に、グループワークやチームワークに関する項目を加える。
- ・ 実験調査研究(フィールドワーク, ゼミナール)の内容をより明確にするため文言を、課題調査研究(フィールドワーク, プロジェクト, ゼミナール等)とする。
- ・ 卒業研究は学士力(1)~(4)を包括する形で配置する。
- ・ 機械工学スタディスキル(エンジニアリングコミュニケーション)の文言を、エンジニアリングコミュニケーション(機械工学スタディスキル)として、初年度(1年)から初年度と中期(1~2年)に拡大して配置する。
- ・ キャリア教育枠は、本委員会における資料項目としてのみ活用する。

以上の意見を踏まえ、学士力とコアカリキュラムとの対応の表を追加修正し、各委員に配布した。

2. 分野別の質保証の在り方についての審議経過の紹介

事務局から、参考資料1~6の分野別の質保証の在り方についての審議経過の内容が紹介された。学術会議の分野別教育課程編成上の基本的な考え方の答申案では、分野を整理した上で、全分野を包括する形で、コアとなる基本的な理念を世界観的な認識として策定することになる。一方、私情教では、各委員会内の作業のとおり、細分化した各分野における学士力と具体的なコアカリキュラムとの対応を事例として提示することになる。

3. 今後のスケジュールについて

事務局より、学士力とコアカリキュラムとの対応表の学士力の項目にある「解説」には、どこまで理解するかといった到達のプロセスや到達度を記述してほしいとの要望があり、現在の解説の文章は学士力の内容説明として右側に備考の形で移項し、別途、学士力の到達目標に至るプロセスを記述する事とした。この修正加筆は、委員長が担当することとし、8月末ごろを目途に、修正第一次案を作成し、各委員へ回覧することとした。

4. 次回委員会：9月25日(金) 10:30 - 12:30(予定)

以上